

## 情報行動の傾向や図書館に対する意識について調査を行いました

「図書館利用者の情報行動の傾向及び図書館に関する意識調査」のデータをぜひご活用ください

**URL: [http://current.ndl.go.jp/FY2014\\_research](http://current.ndl.go.jp/FY2014_research)**

国立国会図書館関西館図書館協力課では、平成 26 年度、「図書館利用者の情報行動の傾向及び図書館に関する意識調査」を実施しました。この調査は、図書館協力事業の一環として当館が実施したものです。調査結果のデータを公開していますので、多くの方にご利用、ご活用いただければ幸いです。

### ■調査の概要

- ・調査対象：20 歳以上の日本在住者（有効サンプル数 5000 件）
- ・調査方法：オンライン調査
- ・調査期間：平成 26 年 12 月 12 日（金）～12 月 17 日（水）
- ・調査内容：「情報行動の傾向」「公共図書館の利用状況」「公共図書館への意識」に大別

※「情報行動」とは、テレビ、雑誌、新聞、インターネットなどから、どの程度情報を入手しているのかといったような行動のことを指します。近年劇的な変化を遂げている情報環境の中では、これからの図書館の在り方を検討するために、図書館を利用していない潜在的な利用者も対象に含めて、情報行動の傾向や図書館に対する意識を把握することが必要です。これらを把握するための調査を実施し、図書館政策の立案者、図書館関係者、図書館情報学の研究者などに、今後の図書館の在り方の検討に資する基礎的な情報を提供することが、この調査の目的です。

### ■様々な分野で広くご活用ください

公開しているのは、調査により得られたデータそのものです。データを分析して何らかの結論を導き出してはしません。図書館情報学分野の研究利用、講義など教育への活用、図書館における利用者像の分析などに広く活用いただくことを目的としています。さまざまな観点から分析したり他のデータと組み合わせて分析したりするなど、図書館や図書館情報学にとどまらず、様々な分野でご活用ください。

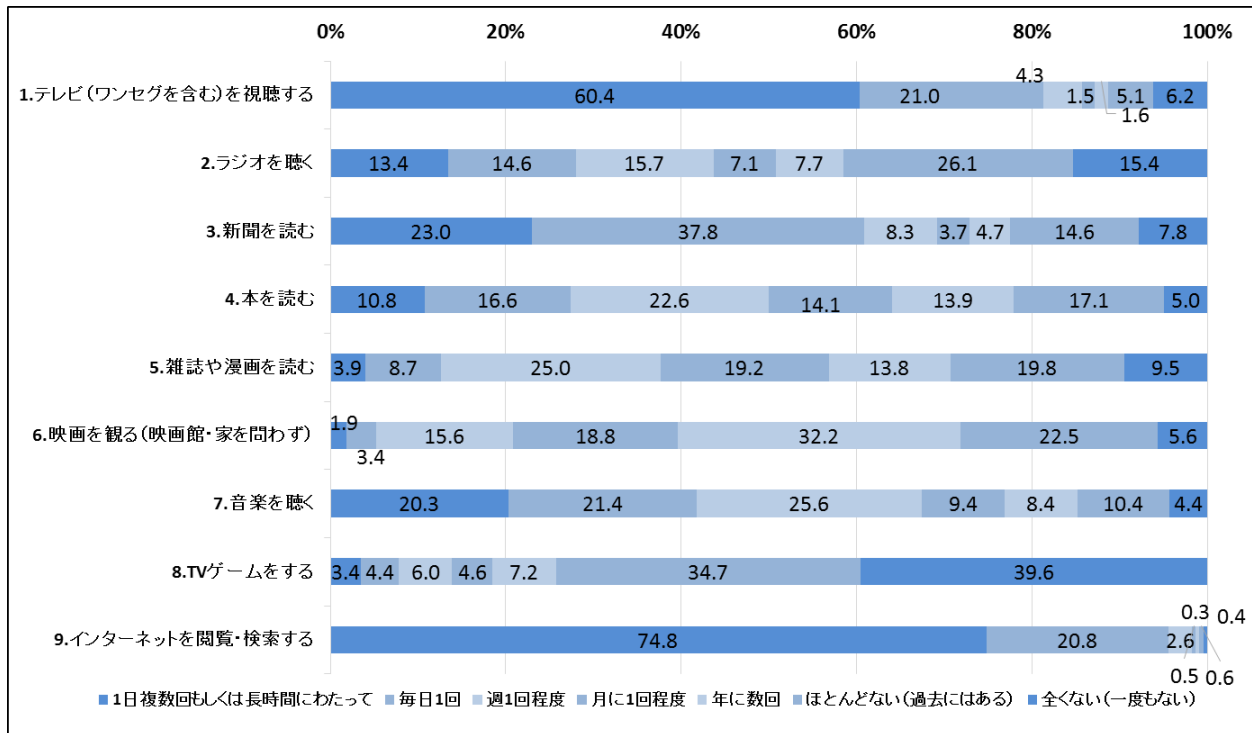
### ■お問い合わせ

国立国会図書館 関西館 図書館協力課 調査情報係 (E-mail: [chojo@ndl.go.jp](mailto:chojo@ndl.go.jp))

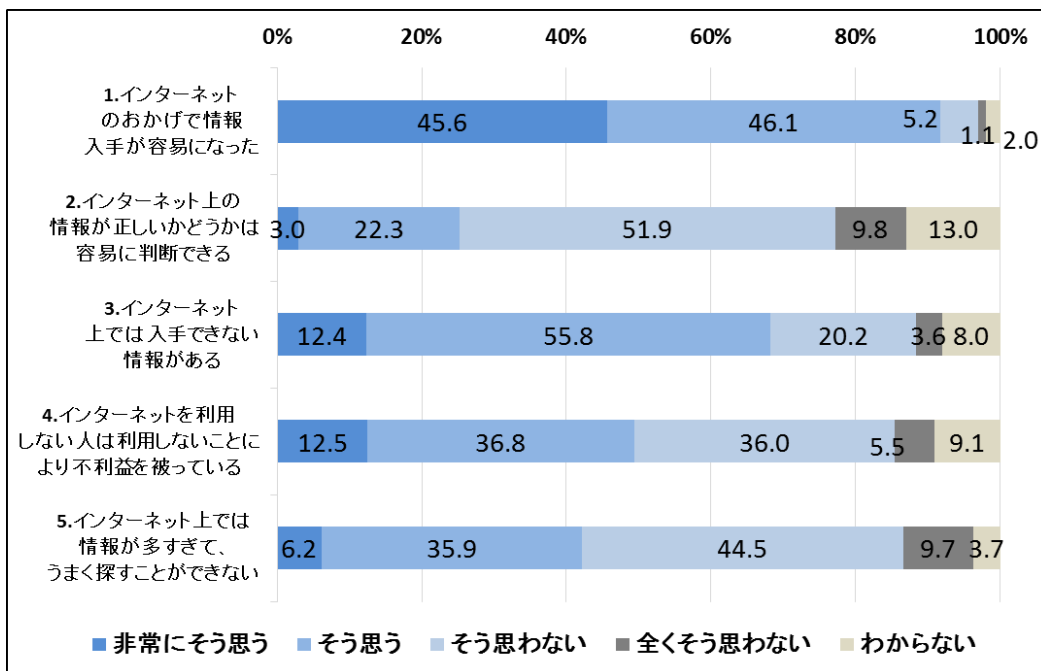
## ■データの例

調査結果を一部ご紹介します。

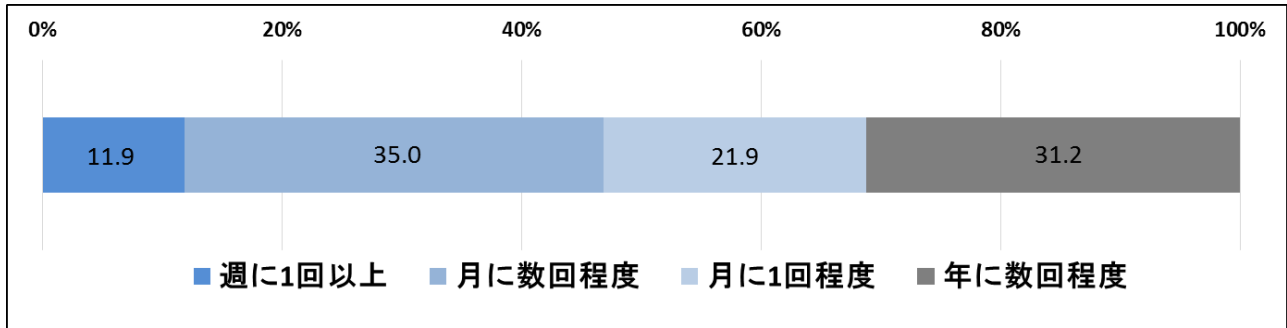
メディア別の情報取得行動の頻度についての質問では、インターネットの閲覧・検索が最も頻繁に行われています。※オンライン調査であるため、回答者はインターネットユーザーであることが推測されます。そのため回答の偏りが生じる可能性があることに注意する必要があります。



また、インターネットに関する意見では、「インターネットのおかげで情報入手が容易になった」という意識が高く、「インターネット上の情報が正しいかどうかは容易に判断できる」という意識は低いです。



2014年に公共図書館・移動図書館を利用した人にその頻度を尋ねる質問では、「月に数回程度」とする回答が多いです。



また、公共図書館のサービスの重要度についての質問では、「本やCDなどの無料の貸出」「読書や勉強をするための場所の提供」などを重要とする回答が多いです。

